

SDGsチャレンジプログラム

国コミュ3年次
学長賞 野原さん・大嶋さん

学内におけるSDGsへの関心を高めることを目的に毎年開催している「専修大学SDGsチャレンジプログラム2025」の表彰式が12月13日、生田キャンパスで開かれた。国際コミュニケーション学部3年次の野原真理子さん、大嶋歩さんが提案した「捨てるリユース容器で作るサステナブルな生活」が学



学長賞を受賞した野原さん・大嶋さんチーム

入賞した学生と馬場学長（後列左から5人目）ら



長賞を受賞した。今年度は「SDG13」気候変動に具体的な対策を「の達成に貢献するためのアクションプランを募集した。付属高校や教育交流提携校を含む全25チームが応募。学内外の4人の審査員が書類とプレゼン動画を審査し、5チームが入賞した。

学長賞のアイデアは、学内イベントで使われる食器をリユース容器にするという提案。野原さんが韓国に留学した際に、実際に留学先の大学で学

生提案により導入された事例を参考に考案した。大嶋さんは「普段の生活からどのような行動を取り入れるか。専大でもリユース容器の導入実現についてみんなで考えていきたい」と話した。審査委員長の馬場学長は総評で、今後とも地球的課題の解決に向けて、行動したいってほしいと述べた。

AI・DXの基礎知識解説

大学院公開講座

講演する中原教授



大学院リカレント教育プログラム・大学院公開講座（全4回）が11月から12月にかけて、神田キャンパスでの対面とオンラインのハイブリッド方式で開催された。「中小企業のためのAI/DXによる業務改革入門講座」を統一テーマに、商

第26回育友会奨励賞 個人・団体22組が受賞
学業やスポーツ、社会貢献など学生が主体的な行動と成果を顕彰する第26回育友会奨励賞の表彰式が12月13日、神田キャンパスで開かれた。今年度は36件の応募があり、このうち個人17件、

団体5組が選ばれ、佐藤信子会長から賞状と奨励金が授与された。式には馬場学長、松本健一理事長、育友会の役員らが出席し、学生たちの多彩な活躍に大きな拍手を送った。

注意喚起

インターンシップ等での就活トラブルについて

近年、本学学生から、インターンシップや就活イベントに関連したトラブルの相談が増えています。「有償インターン」や「大手企業に近づける」といった言葉で学生をひきつけ、実態としては安価な労働力として利用する悪質な事業者も存在します。

本学でも、①契約書がないまま成果報酬型で長時間の訪問販売に従事させられたケース、②企業の指示で立入禁止区域に侵入し警察沙汰になったケース、③1 day仕事体験を通じて、学生を装った第三者から有料セミナー等の不審な勧誘を受けたケースが実際に報告されています。

そのほか、学業に支障が出るような長期・長時間インターンシップ、過度に不安をあおってくるような事業者・就活エージェント、学生に費用が発生するサービス（就活塾）などにも十分な注意が必要です。

少しでも不安や疑問を感じた場合や、トラブルに巻き込まれてしまった場合は、ひとりで抱え込まず、速やかにキャリア形成支援課までご相談ください。

就職だより



手話動作の解析システムを実演する鈴木プロジェクト



「専修生田ルームナビ」を紹介する安積プロジェクト

専修大学北上高校で開かれた社会知性フォーラム



社会知性フォーラム

学校教育と地域の関わり学ぶ

専大北上高で開催

専修大学の研究力・教育力を生かし、地域社会への貢献を図ることを目的として実施している「社会知性フォーラム」が12月6日、岩手県の専修大学北上高校で開かれた。専修大学、専修大学北上高校主催、北上市、石巻専修大学共催。「地域の活性化と学校教育」をテーマに、法学部の森田司郎教授と石巻専修大学経営学部の杉田博教授が講師を務め、高校生や市民らと交流しながら学

びを深めた。馬場学長、八重樫正義副市長のあいさつに続き、杉田教授が講演した。石巻専修大学の学生と地域による協働の事例を紹介。越境学習というキーワードを挙げ、「社会知性の開発は多様な人との交流のなかで育まれる。今後こうした活動を積極的に展開していきたい」と述べた。森田教授は、学校生活や教師の振る舞いを通じて、子どもたちが無意識と高校生に語りかけた。

最後に、森田教授は教科外活動の重要性に言及し、「入試や学力といった呪縛にとらわれて自分の可能性を開き出すことなく、学校や地域のなかでどんな学びでほしい」と高校生に語りかけた。

懸賞論文・文芸作品コンクール

文芸部門鳳賞に渡辺さん



表彰を受ける渡辺さん

ぶごえ」で、生まれたばかりの我が子を殺害した容疑で逮捕された女の心の内奥を描いた。小林恭二ゼミで文芸創作を学んでおり、「先生やゼミ生からの感想、指摘のすべてが糧になっている」と感謝を述べた。史さんの『アウトライン』は、在日朝鮮人としてアイデンティティに悩む主人公が、未来へ向けて歩き始めるために過去を見つめ直す物語。史さんは、「悩みや苦しみの果てに明日がある、そんな作品をこれからも書いていきたい」と話している。

ネット情報
プロジェクト最終発表会

多くの来場者があった最終発表会

ネットワーク情報学部「プロジェクト」の最終発表会が12月13日、生田キャンパスで開かれた。28プロジェクトが、1年間の弁当予約購入システムの開発。学外に目を向けた活動では、服の廃棄

量削減を目指した太田隆博プロジェクトなど、多彩な活動が見られた。6プロジェクトが参加川崎国際環境技術展最終発表会に先立ち、6プロジェクトが11月の第18回川崎国際環境技術展に参加した。小林隆プロジェクトは、シャワーヘッドメーカーの株式会社アラムック（大阪府）と、産学連携で開発を進める「Smart Shower System」を展示した。災害時にも使用可能な防災シャワーシステムのプロトタイプで、製品化に向けて、意欲的に活動している。